

## 「富士503計画」達成に 企業の協力を要請

富士市公害対策審議会から答申された「イオウ酸化物に係る基本的な考え方」をもとに「富士503計画」をつくりましたが、計画を達成するため市内の120工場に対し、このほど説明会を開き協力を要請しました。503計画については前号ですすでにお知らせしましたが、概要について簡単に述べます。

大気汚染を減少させるため、法律では亜硫酸ガスの量を煙突の高さに応じて、地上濃度で基準を決めています。しかし1本1本の煙突が基準を守っても、工場が密集していると重合したり、複合して高濃度汚染が現われます。このため、富士市に合った削減方法を検討してきましたこの方法は、実際に測定した資料をもとに「どこの煙突が」「どの地域を」「どのくらい汚しているか」ということを調べ、汚している程度に応じて削減率を決めたものです。

対象地域は、西は富士川から東へ15㎞南は海岸から北へ12㎞の180平方㎞です。180平方㎞の中に基点を市庁舎に置き、



【渡辺市長から120工場に協力を要請】

1平方㎞の格子に切り、それぞれの平均濃度を計算で出しました。この推定濃度は煙突ごとに影響を調べたものですから、昭和50年度に0.03 P P mという環境目標値を達成するには、どの煙突の排出量を、どれくらい減らしたらよいかということがわかります。

このようにして、各煙突に対するカット率を出しましたが、平均56%のカットをしなければ環境目標値は達成できませ

ん。しかし、すでに亜硫酸ガスの除去や煙源の改善を行なっている企業とそうでない企業があります。そこで企業努力をプラス、マイナスしないと「公正」を欠くことになりますから、それぞれの削減率に補正しました。

こうして煙突ごとに出した削減率を各工場に示し、渡辺市長は「市民の健康を守るため目標達成に最大の企業努力をしていただきたい」と協力を要請しました

## 緑と花のコーナー

### 立派な花壇は「よい土」から

さて、どんな花壇をつくるか決まりましたか。最初から大きなものをつくろうとしても、なかなか思うようにはいかないものです。

まず立派な花壇はよい土質からできます。よい土質は、土が黒味を帯びてやわらかいということです。これは中によく腐った堆肥が含まれているからです。しかし、海岸の近く、沼の近くなど場所によつて土質が異なりますから、多少土質の改良が必要なこともあります。たとえば、砂土には田の土をまぜたり、粘土には砂をまぜたりして、水排けのよすぎるのを防いだり、通気性をよくしたりします。土質の改良が終れば、いよいよ花壇づくりに取りかかります。苗床づくりが最初の仕事になりますが、その前に必要な苗やブロック、石の数などを知るためにつくりたい花壇の絵を書いておくと便利です。

床の地ごしらえは、クワ、シャベルで耕します。その際、石灰を3.3平方㎞当り移植ゴテ2〜3杯まいて耕し、酸性土になるのを防ぎます。雑草とか落葉などは花壇の底にひきこんでしまいます。耕しながら小石、かわら、雑草の根などはたんねんにとり除いてください。あまり多いときは、フルイにかけする必要があります。

スコップで一度おこすと、約20㎞の深さに耕したことになりますから、さらにもう一段低く、軽く1回耕すと、30〜40㎞くらい耕したことになり理想的です。耕したらそのまま1週間くらい、天日にさらしておくと土壌消毒になり、病虫害の発生が少なくなります。また、大きな土のかたまりも風化されて、こまかく砕けやすくなります。

こうして、最後に平らにしますが、いくぶん中高にすると、中心に水がたまら

ず安心です。この地ごしらえの時に堆肥とか、鶏ふんなどの基肥を底のほうへ入れておくと、あとになつて地力の保護に役立ちます。

苗床ができあがると次は花壇への植えつけです。植えつけは、曇天で風がない日が適当です。春と秋は日中、夏は午後3時すぎが植えつけ時間のうまいときです。また、雨あがりかもつとも適しています。よくなした花壇に縄を張つたり竹の棒などを寝かせ縦横の筋などをつけて苗を植えてください。

